

◇インタビュー 平川南

地下から発見される文字は地域にとってかけがえのない資料

◇横浜開港150周年記念特集

- 横浜開港150周年によせて
- 横浜市歴史博物館 横浜開港150周年記念関連催し物
- 横浜開港150周年記念企画展 Part1
「絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」によせて
- 「都筑アートプロジェクト2009」の開催

◇「ちょっとミュージアムショップたいむ」ヨコハマグッズ

横浜市 歴史博物館 NEWS 28 2009・5



●御開港横浜一覽双六(横浜開港資料館所蔵)

平川 南

(ひらかわ・みなみ)



地下から発見される文字は 地域にとって かけがえのない資料

◎古代史に興味を持った理由は何ですか。

高校生までは特に歴史が好き、というほどではなく、大学で古代史の青木和夫先生の講義を受けてから、興味を持つようになりました。先生は、例えば『日本書紀』のほんの一条の記述から、延々と話を広げていくのです。推理小説のように、史料を徐々に読み解いて事実を明らかにする、という作業が印象的でした。

私の歴史研究の原点は卒業後、高校教員を三年間務めた時の経験にあります。大学紛争の影響が高校にも及んでいた時期で、私は雑誌などを教材にしながら、社会に対する厳しい目、特に「差別」に対する敏感さと批判意識を持つように、と生徒に求めました。研究者の世界に入ってから、生徒たちに話したことの正しさ、歴史の研究によって証明できるか、という課題がいつも自分の中にありました。そうしたこだわりを持ちながら、いろいろなことに取り組み、現段階で私なりに到達した考えを『日本の原像』（二〇〇八年刊）という本に著しました。現

代の日本には戦争、環境、生と死、宗教、都市などの社会的または精神的な課題が多くあります。それらを解決するには、原点である古代からまず、読み解くべきではないか。私が古代史を研究する意義もそこにある、と思っています。

考古学と文献史学を結ぶ

◎漆紙文書（廃棄された紙が漆の容器のふたに使われ、漆が付着したため、地下に残った文書）、木簡（木片に文字を記したもの）、墨書土器（墨で文字が記された土器）などの文字資料に着目した理由は。

教員をやめて間もなく、宮城県多賀城跡の発掘調査に係わる仕事に就きました。その時に、考古学と古代史の橋渡しのような仕事ができなかつた。つまり、考古学の資料を古代史の資料として使うことで、新しい歴史像が見えてくるのでは、と考えたのです。それで、考古学調査で出土する文字資料を研究するようになりました。この文字資料は、その地域に残された、かけがえのない資料です。歴史

書でわかるのは主として国家の歴史です。出土文字資料や、ほかの考古学資料をもとに地域史を解明していくことで、歴史像全体も膨らんでいくことでしょう。

代表する一五人の委員に、事業案を示したりしています。かなり厳しい意見も出ますが、日頃、こういう場でいろいろな方とコミュニケーションを取ることは、博物館の改善と博物館の支援者を増やすことにもつながっています。

◎研究範囲を東アジアまで広げた理由は。

ごく自然なことです。歴史は、いろいろな人との接触、他地域との交流を通じてつくられるもので、一国内で閉じることはありえません。文字の研究にしても、中国の漢字を取り入れたのですから、当然、中国のことを考えなければならぬし、朝鮮半島を経る間に変形されて伝えられた、となれば、古代朝鮮との交流の歴史も見ることが出てきます。

積極的に共有・公開

◎博物館の運営で、外部の力をどのよう

に活用したらよいでしょうか。私が館長を務める国立歴史民俗博物館では二年ほど前、当館の意義を「博物館型研究統合」という理念としてまとめました。博物館は資源、研究、展示という三つの要素をもち、それぞれが双方向で関係し合っています。これらを積極的に共有・公開することで、博物館は最大の機能を発揮できます。例えば、展示により「こういう資料なら、うちにもある」などと情報が入り、研究が深まったり、資料が充実することもあるからです。共有・公開を促す、という意味で、市民に開かれた仕組みをつくることも大切

設立理念を振り返る

◎当館の運営に助言をいただけますか。

博物館運営にとって一番大切なものはコンセプト、設立時の理念です。それをいつでも新鮮な思いで振り返りながら、かざしながら、改めながら、原点として持っていることです。それがなくなると、迷走してしまいます。また多様な考えの方々の声を大切にすることも心がけるべきでしょう。さらに、情報化が進む中で、人々の知的需要は想像以上に高く、それにこたえるために、質の高いものを発信しなくてははいけません。そのためには、ベースとなる調査研究を怠りなく行うことが第一ですから、活動しやすいように、研究環境が十分整えられることが望まれます。

ワひらかわ・みなみ プロフィール

●一九四三年、山梨県生まれ。山梨大学文学部社会学科卒業。文学博士（東京大学）。一九七〇年より宮城県多賀城跡調査研究所。一九八二年、国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授、一九八九年教授。漆紙文書、木簡、墨書土器などの出土文字資料により、古代社会を研究する。文献史学の領域にとどまらず、考古学、民俗学、さらには自然科学などとの総合学問としての歴史をめざす。

●著書 『漆紙文書の研究』『墨書土器の研究』『古代地方木簡の研究』（吉川弘文館）『よみがえる古代文書 漆に封じ込められた日本社会』（岩波新書）岩波書店『日本の歴史2 日本の原像 新視点古代史』（小学館）。

横浜開港一五〇周年によせて



本年六月二日、横浜は開港一五〇周年を迎えます。この記念すべき年に当たり、当博物館はさまざまな記念事業に取り組んでいます。

中心となるのは、日頃の調査研究を踏まえた企画展です。すでに一月末から、神奈川県・川宿の文人の日記を素材に、開港前後の当地域の動きを捉えた「黒船・開国・社会騒乱―日記にみる一五〇年前の横浜」を、次いで四月からは、開港以前に遡って中世の神奈川湊をめぐる海上の交流と争いを取り上げた「海賊―室町・戦国時代の東京湾と横浜」を展示しました。いずれも長期的視点で歴史を究明している当博物館の特性を発揮した企画でしたが、幸い好評を得ることができました。

これから、開港記念日をはさんで夏にかけては、「絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」、「瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港」（仮題）の二つの企画展を開催します。絵地図・絵巻など、当館が所蔵するものばかりではなく、横浜開港資料館の全面的協力を得て、同館ではスペースの関係で展示できない大きなものを含め

て、色彩豊かに開国・開港期における横浜の風景を再現します。この間、六月六、七日には、さまざまなイベントと合わせて無料で見学いただける開港一五〇周年記念フェスタも予定しています。

また開港記念日に際して、『横浜 歴史と文化』を刊行します。当館を運営する横浜市ふるさと歴史財団は、横浜開港資料館・横浜都市発展記念館など横浜市が設置しているすべての歴史関係施設の運営に当たっており、原始・古代から現代にいたる専門職員が揃っています。その総力を挙げて、図版中心で分かりやすく読みやすい横浜最新の通史をまとめ、有隣堂から出版して市販します。

当館の立地する横浜市の北部丘陵地帯は、実は一三〇年前の明治二三年（一八八九）に横浜市が発足したときには、まだ市域には入っていませんでした。以後六次にわたる市域拡張の結果として現在の市域がほぼ確定するのですが、昭和十四年（一九三九）四月の第六次拡張によって市域に編入されたのです。従って本年は、この地域にとっては市域編入七〇周年にも当たって

います。この地域では、高度成長期以降人口が増加を続けて都市化が進んできたことから分区分区が繰り返され、平成六年（一九九四）一月六日に都筑区・青葉区が発足しました。

このように、地元都筑区・青葉区が区制一五周年を迎えることを記念して、九月からは、新たな展示「博物館収蔵 都筑区・青葉区関係資料展」（仮題）、「陸の道と海の道の交差点―江戸時代の神奈川」（仮題）を計画しています。また野外では、遺跡公園を活用して都筑アートプロジェクト二〇〇九の野外展を開催します。

さらに一連の一五〇周年記念事業の締めくくりとして、横浜郷土史団体連絡協議会・横浜開港資料館との共催で、十一月一日当館で「神奈川湊から横浜港へ」をテーマにシンポジウムを予定しています。

このように一五〇周年に際しては、盛り沢山にさまざまな記念事業を展開しますので、どうかみなさま、お気軽にご来館下さるようお願いしております。

高村 直助（横浜歴史博物館館長）

横浜市歴史博物館 横浜開港一五〇周年記念関連催し物



湾岸の博物館めぐり
スタンプラリー

いよいよ開港一五〇周年の六月二日をむかえます。まさしく開港の場であった中区、西区では横浜市をあげての博覧会が催されます。開港当時、港から遠く離れたこの都筑の地では、人々はどのような思いでそのニュースを受けとめたのでしょうか？

港から離れてはいますが、横浜市歴史博物館でも開港一五〇周年を記念してさまざまな催し物を予定しています。皆様にも一五〇周年の記念の年のイベントとしてお楽しみください。

湾岸の博物館めぐりスタンプラリー

四月四日(土)～八月三〇日(日)

東京湾岸にはさまざまな時代をテーマとする博物館があります。横浜開港一五〇周年記念第二弾の特別展「海賊―室町・戦国時代の東京湾と横浜―」にあわせ、東京湾岸一館の博物館の協力をえて、「湾岸の博物館めぐりスタンプラリー」を実施しています。古代・中世から現代までの東京湾の歴史を、それぞれの博物館で学びながら、スタンプを集めてください。抽選でプレゼントもあたります。

企画展「絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」

五月二三日(土)～七月五日(日)

安政六年(一八五九)の開港前後から明治一〇年代までの開港場であった横浜

に関する横浜市歴史博物館・横浜開港資料館所蔵の絵地図・浮世絵等を展示します。開港期から明治初年の横浜とその周辺地域の風景の変貌をご紹介します。

バスツアー

開港場新潟と北前船の湊を訪ねて

六月三日(水)～四日(木)

新潟は昨年開港一四〇周年を迎えています。横浜と同じ開港場であった新潟をたずね、北国街道沿いに点在する弥彦・寺泊・出雲崎など、開港とその前段である北前船や江戸時代の海運にまつわる史跡や文化財を訪ねます。

開港一五〇周年記念フェスタ

六月六日(土)・七日(日) 全館無料

両日、パフォーマンス、土器パズル、



開港150周年記念フェスタ (昔ののりもの)



大塚・蔵勝土遺跡公園での野焼き



ふるさと横浜探検
よこはま事始め



エントランスホールコンサート

展示解説等さまざまな催し物を行います。同時に大塚・歳勝土遺跡公園では土器の野焼き（六日のみ）や都筑区主催ウォークアンドフェスタ（七日のみ）も開催されます。開港一五〇周年記念キャラクター「たねまる」もやってきます。（七日一五時から）

エントランスホールコンサート 七月四日（土）

皆様に楽しんでいただいています毎年恒例の夏のエントランスホールコンサートも、今年は横浜開港一五〇周年を記念したピアノ、ソプラノ、フルートによるコンサートです。横浜が開港した一五〇年前頃から明治にかけてのアメリカ・フランス・ロシア・日本などの曲が現代によみがえります。当館所蔵のNishikawa & Son銘アップライトピアノ（明治時代・大正時代初期）の演奏も行われます。

ふるさと横浜探検 よこはま事始め

今年はふるさと横浜探検も開港一五〇周年バージョンです。

○四月 山手居留地を歩く（妙香寺、山手公園、神奈川県立近代文学館、港の見える丘公園、ヘボン博士邸跡）

○五月 関外・関内の日本人町を歩く（伊勢佐木町、馬車道、横浜公園、横浜開港記念会館、大根橋（横浜港クルーズ）、横浜海岸教会）

○七月 神奈川宿から横浜居留地へ（慶運寺、本覚寺、（シーバス利用）、山下公園、横浜天主堂跡、像の鼻地区、赤レンガパーク、運河パーク）

過去と現在の開港スポットを船と徒歩でめぐります。

港北・緑・山内・都筑図書館合同企画 4区のチェンジ！大変貌展 横浜市編入七〇年の歴史

七月九日（木）～二六日（日）（横浜市歴史博物館での展示）

その昔、博物館のある都筑区をはじめ港北・緑・青葉のあたりは奈良時代から昭和にかけての長い間、都筑郡と呼ばれていました。開港一五〇年にあたる今年はこの四区が横浜市に編入してから七〇年目でもあります。その間の変貌を写真パネル等で追うパネル展示の巡回展を、四区の図書館と五番目の図書館でもある図書館のある横浜市歴史博物館で行います。

企画展「瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港」（仮題）

七月一八日（土）～八月三〇日（日）

嘉永六年（一八五三）と七年の二度にわたるペリー来航と、安政六年の横浜開港に関する、瓦版・絵巻を中心に展示を行います。

マリノス展

八月一五日（土）～三〇日（日）

一九七二年に日産自動車サッカ一部として誕生した横浜マリノスと、一九六四年横浜中区スポーツ少年団として設立した横浜フリューゲルスは、一九九九年横浜・F・マリノスとして新たなスタートを切りました。ホームグラウンドを横浜にもち、ホームタウンを横浜とする横浜・F・マリノスの協力をえて、エントランスホールにてマリノス展を開催します。会期中はマリノス展も来館します。

（長岡 浩美）



都筑区主催
ウォークアンドフェスタ



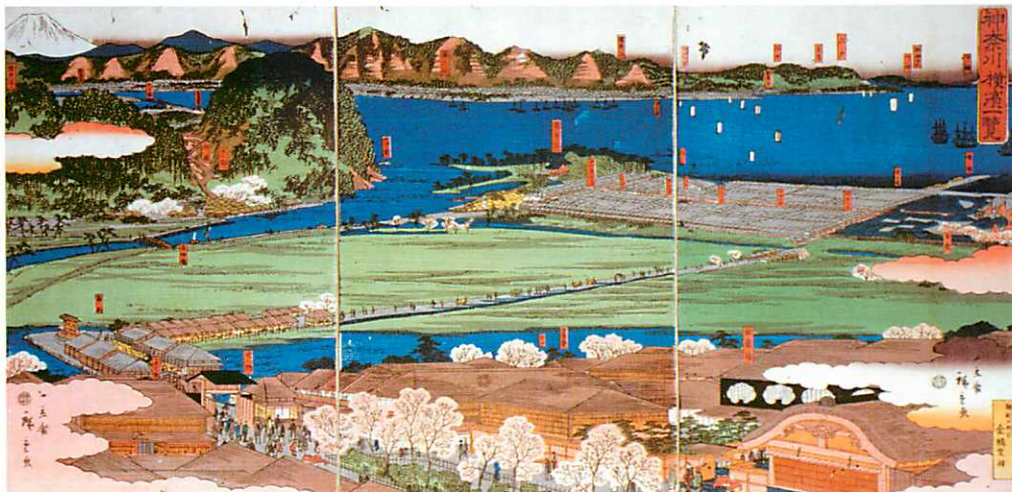
開港150周年記念フェスタ（土器バズル）

横浜開港150周年記念企画展 Part1

絵地図・浮世絵にみる 開港場・横浜の風景 によせて

今年・平成二十二年（二〇〇九）は、安政六年（一八五九）に横浜が開港してから一五〇周年にあたります。これを記念して、横浜歴史博物館では、六月二日の開港記念日を中心に、「横浜開港一五〇周年記念企画展」として、「Part1 絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」（会期：五月三日（土）～七月五日（日）と、「Part2 瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港」（仮題）（会期：七月一八日（土）～八月三〇日（日））という二本の展覧会を開催します。

今回の展示は、現在、ともに横浜市ふるさと歴史財団の管轄施設となっている横浜市歴史博物館と横浜開港資料館が主催であり、展示資料の中心は、横浜開港資料館が長年にわたり収集してきたペリー来航や横浜開港にかかわる絵地図・浮世絵・瓦版・



神奈川横浜一覽（横浜開港資料館所蔵）

絵巻などになります。これを同館の企画展示室よりも広いスペースを持つ横浜市歴史博物館の企画展示室で一堂に公開してみようという趣旨です。

開港した横浜の地は、外国人の居留地が置かれ、当時の日本人にとって珍しい風俗・風景が日常に見聞きされた場所でした。いわば江戸近郊に新たな名所が成立したわけであり、当然それに関する情報の需要が高まり、前述したさまざまな媒体が刊行されたものと思われまます。なかでも特に浮世絵は人気があり、後に「横浜浮世絵」と総称されるほどの数量が製作されています。

「Part1 絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」の構成は次の通りです。

- (一) 三五〇～一五〇年前の横浜
- (二) 横浜をめぐる絵地図と鳥瞰図
- (三) 開港場横浜の賑わい
- (四) 東海道から横浜へ

(一)では、開港前の横浜村とその周辺の風景を、浮世絵や『江戸名所図会』の挿絵などから概観します。近代における発展を強調するためのレトリックである「鄙びた寒村」ほどではないにせよ、落ち着いた江戸期の風景が感じられるかと思えます。(二)では、開港前後から明治初年にかけて作成された絵地図・浮世絵の内、空中から斜

め下を鳥瞰的な視線で描いたものを展示します。このタイプの絵画については、貞秀が代表的な絵師ですが、それ以外にも二代広重（立祥）なども描いており、絵師による表現の違いや、時期による開港場の情景の変化を比較してみるのも興味のあることでしょう。(三)は、開港場の中における賑わいを記した浮世絵が対象で、水平的な視線ということになるでしょうか。外国・日本の商人や、交易・見物などさまざまな目的で全国各地から集う人々の息吹が感じられると思います。(四)は、江戸から開港場・横浜へといたるルートである東海道・横浜道を題材としたもの、あるいは東海道神奈川宿より開港場・横浜を臨んだ浮世絵等を展示します。海越しに神奈川宿から眺める横浜の風景は、まさに海の彼方にある蜃気楼のように思われたかもしれせん。

展示資料の総計は約八〇点。全体として、大錦三枚統等といった比較的大型のものを陳列する予定です。関連事業として、研究講座・展示説明（フロアレクチャー）をそれぞれ三回ずつ開催します（日程等についてはチラシ等を参照ください）。

なお、「Part2 瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港（仮題）」については、嘉永六年（一八五三）・同七年（一八五四）の二度にわたるペリー来航と、安政六年（一八五九）の横浜開港に関する、瓦版・絵巻を中心に展示を行う予定です。（斎藤 司）

「都筑アートプロジェクト二〇〇九」の開催



作家向けのロケツアーの様子 写真提供＝岡本典大氏

原始の遺跡に現代アートの作品が置かれたら、皆さんはどのように感じますか。組み合わせとしてはミスマッチな展覧会「都筑アートプロジェクト二〇〇九 ニュータウン・ピクニック―遺跡をめぐるアート―」を、博物館では都筑民家園（正式名称「大塚歳勝土遺跡公園都筑民家園管理運営委員会」と共同で、横浜開港一五〇周年の記念企画として開催します。その趣旨は、実行委員会によると「アートの視点によって、この街（港北ニュータウン）の現在と歴史



昨年の「ニュータウン☆パラダイス」会場風景 写真提供＝金井聡和氏

的時間とのつながりの回復をはかりながら、人々の交流を促進し、地域と結びついたアートの新たな可能性を探る」とあります。

この展覧会のきっかけは大塚・歳勝土遺跡公園内にある都筑民家園が三年前から園内で現代アート展を開催したことに始まります。都筑民家園は江戸時代の古民家を中心とした施設で、三年間続けられた古民家と現代アートの異質なコラボレーションは新鮮でした。この間、民家園と博物館の職員との間で、開港一五〇周年を迎える年には、会場を弥生時代の遺跡エリアに広げ、一挙に原始までを舞台とする現代アートを展開したいとの話が出て、今回の企画につながりました。

展覧会の会場は、博物館のエントランス・屋上と都筑民家園や弥生の復元住居を含む大塚・歳勝土遺跡公園全体が予定されています。会期は一月二〇日（火）から一月七日（土）までで、この間に作家によるガイドツアーや市民とのトークセッション、作家の公開制作なども計画されています。また展覧会の関連イベントとして、一月一日（土）・二日（日）には大塚遺跡内でアートフリーマーケットとコンサートを開き、本番の企画を盛り上げる予定です。実施にあたっては都筑民家園と横浜市歴史博物館に加え、作家やアーティスト、コーディネーターなど多彩なメンバーからなる「都筑アートプロジェクト二〇〇九実行委員会」が結成され、この三者が定期的に協議を重ね、準備が進んでいます。参加作家は四月現在二五組のエントリーがあり、四月一日（土）・二日（日）には作家向けのロケツアーが行われました。遺跡や古民家という「歴史の舞台」を前にして、作家たちの反応はおおむね良好でした。この時、彼らが自身の作品制作にどのようなインスピレーションを持ったのかはわかりませんが、秋の展覧会で出現する作品と作品群が、織りなすアート空間が今から楽しみです。

（井上 攻）

ちょいと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time



写真上から時計回りで
地図「ジオラマ横浜」¥1,700／CD「横浜音開港」¥2,000／「横浜音散歩」¥1,200／赤い靴チョコレート 1個¥273／横浜カレー（ペルリパッケージ）¥420／書籍「横浜タイムトリップガイド」¥1,680（価格は全て税込）

新しい名所になりそうですね。

当館のショップでも今年は開港一五〇周年にちなむヨコハマグッズを充実させていく予定です。写真にあるのは横浜港の鳥瞰図（なんと！全て手描きです）、ペリーのバッケージのカレー、既におなじみの赤い靴チョコレート、横浜の環境音や、ペリー来航の際に演奏されたとする曲が収録されたCD、などなどです。そうそう、開港一五〇周年記念キャラクター、たねまるグッズもありますよ。関連書籍も充実させていきたいと考えていますので、時々ぞきに来てくださいね。

ヨコハマグッズ

今年は横浜開港一五〇周年、ということ、巷でも盛り上がりつつあるね！ゆずが歌うテーマソング「みらい」をテレビなどで耳にすることも多くなってきました。

開港記念日の六月二日には中区の大桟橋にある象の鼻地区に「象の鼻パーク」という公園がオープンするようです。アート作品の展示やパフォーマンスを行う多目的テラスも建設され、これまでにない夜景も楽しめそうです。

これからの催しもの

- 企画展「Part1 絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」5月23日(土)～7月5日(日)
- 企画展「Part2 瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港」(仮題)
7月18日(土)～8月30日(日)
- 資料展「博物館所蔵 都筑区・青葉区関係資料」(仮題)9月12日(土)～10月4日(日)
- 特別展「陸の道と海の道の交差点—江戸時代の神奈川—」(仮題)
10月17日(土)～11月29日(日)
- 企画展「横浜市指定の考古資料」(仮題)12月12日(土)～1月11日(月)

御開港横浜一覽双六 芳幾 万延元年(1860)
(横浜開港資料館所蔵)
右下の日本橋を振り出しとし、東海道の品川・川崎・神奈川の各宿を経て、横浜道から開港場へいたり、中央部の左端の「外国人屋敷」を上がりとする双六。安政6年(1859)の横浜開港の翌年に刊行された。

- 10月1日 体験学習室ミニ展示「とき土器縄文展」(11月28日まで)
- 10月3日 古文書解説教室「初めての古文書」(12月5日まで全10回)
- 10月4日 特別展「縄文文化円熟—華厳台遺跡と後・晩期社会—」開催
(11月24日まで)
- 10月5日 特別展関連フロアレクチャー
- 10月11・12日 体験学習「土偶づくり」
- 10月16日 特別展関連バスツアー「石の文化を訪ねて」
- 10月18日 ふるさと横浜探検「谷本川と寺家の里山を訪ねて」
- 10月25日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」
- 10月26日 特別展関連講演会「海辺の生活と精神文化」
- 11月1日 野焼き
- 11月6日 特別展関連バスツアー「華麗な耳飾りを訪ねて」
- 11月9日 特別展関連フロアレクチャー
- 11月15日 体験学習「かざぐるまづくり」
- 11月16日 特別展関連講演会「縄文後・晩期の社会と文化」
体験学習「ぞうりあみ」
- 11月20日 ふるさと横浜探検「旧東海道島田・金谷宿と蓬萊橋を訪ねて」
- 11月29日 体験学習室ミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」(3月31日まで)
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」
- 12月13日 企画展「平成20年度横浜市指定・登録文化財展」【横浜の遺跡展】
開催(1月18日まで)
- 12月13・14日 体験学習「風つくり」
- 12月20日 エントランスホールコンサート「クリスマス・おら・トリオ～オーボエ、ヴァイオリン、ピアノで奏でるクリスマス～」
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」
- 12月21日 企画展関連フロアレクチャー
- 1月9日 「ハマの七福神めぐり」(4月5日まで)
- 1月10日 企画展関連講演会「遺跡の発掘から何がわかるのか—北川貝塚が語る横浜の原始古代—」
- 1月11日 企画展関連フロアレクチャー
- 1月15日 古文書解説講座「上級編」(2月12日まで全5回)
古代史講読講座(2月12日まで全5回)
- 1月17日 紙芝居がやってくる!
- 1月20日 収蔵資料ミニ展示「初代広重『東海道五拾三次之内』(保永堂版、小判版)」(1月25日まで)
- 1月24日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
- 1月24・25日 体験学習「紙すき」
- 1月25日 収蔵資料ミニ展示解説
- 1月31日 企画展「黒船・開国・社会騒乱一日記にみる150年前の日本—」
開催(3月15日まで)
- 1月31日 企画展関連フロアレクチャー
- 2月1日 博物館感謝デー
- 2月1日 企画展関連フロアレクチャー
- 2月8日 開館14周年記念特別講演会「古代国家と文字文化—東アジア交

- 2月10日 流の原点「文字」—
収蔵資料ミニ展示「三代広重『東海道五十三次』(小判)」
(2月15日まで)
- 2月14日 企画展関連講演会「情報時代幕末の特質—日記・手紙そして風説留—」
企画展関連フロアレクチャー
- 2月15日 収蔵資料ミニ展示解説
土器づくり教室(3月28日まで全4回)
- 2月19～20日 開港150周年記念企画バスツアー「早春の伊豆半島—開港前夜の港町伊豆下田と河津桜を訪ねて—」
- 2月21日 紙芝居がやってくる!
- 2月22日 開港150周年100日前講演会「横浜開港の謎に迫る」
- 2月22日 入門講座「民俗の見方、調べ方」(3月22日まで全4回)
- 2月26日 企画展関連ウォーキングツアー「開港前後の神奈川宿を訪ねて」
- 2月28日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
- 3月1日 企画展関連研究講座「佐藤文相をめぐる人々」
企画展関連フロアレクチャー
- 3月7日 企画展関連フロアレクチャー
- 3月10日 収蔵資料ミニ展示「明治時代～昭和時代初期の絵はがき」(3月15日まで)
- 3月15日 収蔵資料ミニ展示解説
- 3月20日 紙芝居がやってくる!
- 3月21日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」
- 4月1日 体験学習室ミニ展示「私たちが作った縄文土器展」(4月5日まで)
- 4月4日 特別展「海賊—室町・戦国時代の東京湾と横浜—」開催(5月10日まで)
- 4月4日 「湾岸の博物館めぐり」スタンプラリー(8月30日まで)
- 4月12日 特別展関連フロアレクチャー
- 4月16日 特別展関連バスツアー「里見氏の城・館山城と内房の寺社を訪ねて」
- 4月19日 特別展関連フロアレクチャー
- 4月23日 特別展関連バスツアー「横浜港クルーズと船の科学館めぐり」
- 4月25日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」「火起こし体験」
- 4月25・26日 体験学習「まがたまづくり」
- 4月26日 特別展関連講演会「瀬戸内海と海賊」
- 4月30日 ふるさと横浜探検「よこはま事始め 山手居留地を歩く」
- 5月2日 特別展関連講演会「東京湾をめぐる戦国争乱」
- 5月3日 特別展関連講演会「境界の海東京湾と房総の海賊・城」
- 5月21日 ふるさと横浜探検「よこはま事始め 関外・関内の日本人町を歩く」
- 5月23日 企画展「Part1 絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」
開催(7月5日まで)
- 5月30日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」「火起こし体験」

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

編集後記

横浜市歴史博物館にどうぞご期待ください。

- 開館時間
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
都筑民家園
毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「濱ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

- 交通案内図 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



- 駐車場あり (1時間200円)
- インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>